



【2016-08-17】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週は、雑感です。
身近な自然に触れる

長野修二

身近な自然に触れる

生まれ育った環境は、案外長い時間を経ても身体感覚の中で、いわばそれぞれの人の「原風景」として残っているのではないのでしょうか。

私にとっては、田んぼや川や池が存在する風景が、厳然として身体の中に存在しています。

今はなくなりましたが、田植え前のレンゲ畑や梅雨のときの田植え、真夏の日光をもらいすくすくと成長していく稲、秋風と抜けるような青空に映える黄金色の稲穂といった感じでしょうか。

このような景色がないと、なかなか落ち着きません。

その意味では、今住んでいるところも「運」でしょうか、まわりが田んぼや川に囲まれた風景は、まさに原風景そのもののようです。

とても精神がやすまることです。

稲の穂が、風に揺れる景色はまさに自然の風の流れる感じることができる大事なひとときです。



今はつばめの子育ても終わり、毎日家族で飛翔訓練をしています。稲は順調に生育し、秋風とともにつばめ達は旅たち、田んぼでは稲刈りがはじまり、また静寂とともに殺風景な田んぼにもどっていきます。



5月から10月までは、田んぼには多くの生きもたちが集まり数々の営みをみせてくれますが11月から4月までは、荒涼とした田んぼの中に小さな鳥たちが集まってきますが、どちらかといえば静かなときを奏でているようでもあります。また、この季節になると水鳥達、オオバンやかるがもたちが近くの川へやってきて子育てとともににぎやかになる季節です。



身近な自然に触れてみることで多くの生きもたちや植物たちもそれぞれの環境で命を育んでいることがわかり、人間自身の生活に躍動感をもたらしてくれるようです。

お米からは美味しいご飯やお酒などが造られて人間の生活の基盤を支えてもらっていると同時に、うまい日本酒は生活に潤いを与えてくれるようです。このような身近な自然に感謝しながら生きていくのも幸せな時間でしょうか。

都市化が進んでいるといわれますが、東京の一部を除けば、いたるところに田んぼや川や池があるものです。

最近いった大宮近くには、「[見沼たんぼ](#)」というすばらしいたんぼや畑、雑木林、河川や見沼代用水によってつくられる美しい田園風景があります。

大宮駅からも歩いていける場所ですし、このような景観が都市化の中でも守られて

いることはすばらしことではないでしょうか。

たまには身近にある自然に触れてみるのもよいのではないのでしょうか。

